

# 千葉県作業療法士の 勤務実態調査

千葉県作業療法士会 調査部

(県立保健医療大学共同調査)

2010年2月27日

## 目的

- 現在の県内の作業療法士の動向を調査検討する
- 今後の作業療法の動向を検討する
- 今後に望まれる作業療法士像を検討する

## 方法

- 一般社団法人千葉県作業療法士会員に対するアンケート調査
- アンケート内容は、以下の5大項目とした
  - 1.個人属性
  - 2.勤務先属性(日本作業療法士協会分類コード)
  - 3.現場の実際
  - 4.今後、現場への希望(日本作業療法士協会分類コード)
  - 5.今後、必要とされる作業療法士の資質
- 集計は、各項目の回答数を累積した
- 集計結果を目的に沿って検討した

## 結果1 概要と属性1

- アンケート発送は名簿<sup>1)</sup>で確認できた909名であり、返送されたのは262名(回収率28.8%)であった(2010年2月25日現在)。
- 262名の内訳は男性70名、女性192名であり、年齢別会員数、主たる勤務先の状況とを図に示す(参考:200年度協会調査部会員統計資料 n=35880名)。

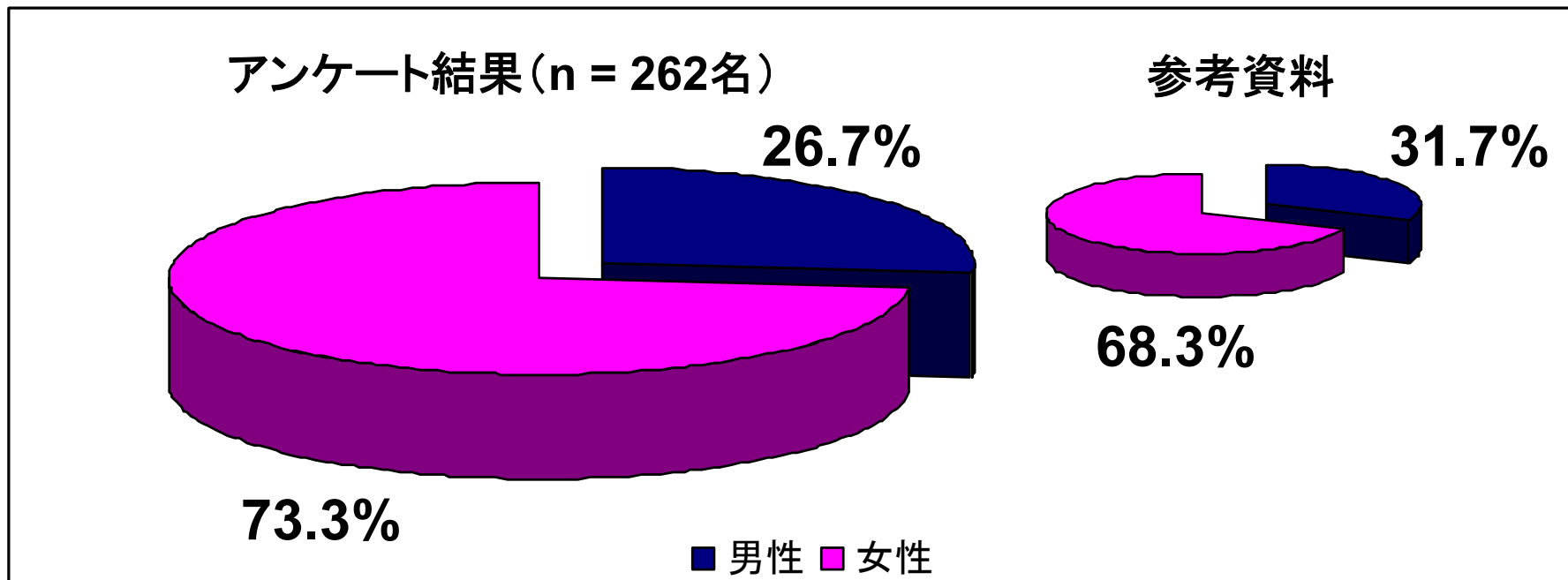


図1 男女比(参考:協会調査部調査)

# 結果2 属性2

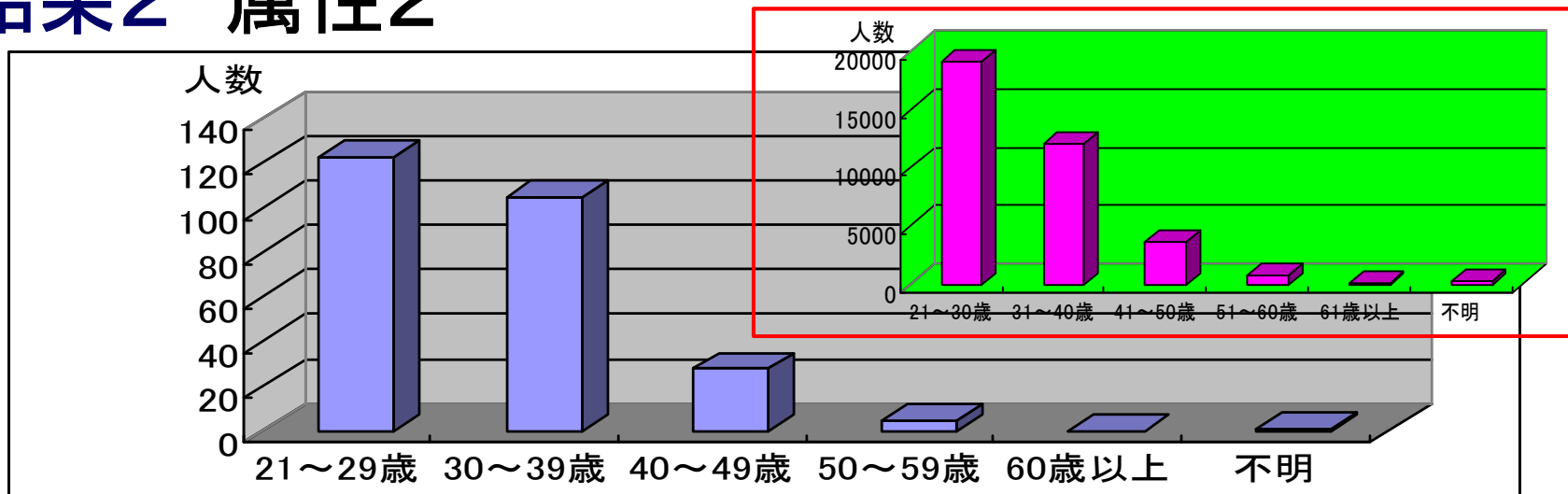


図2 年齢分布(参考:協会調査部調査)

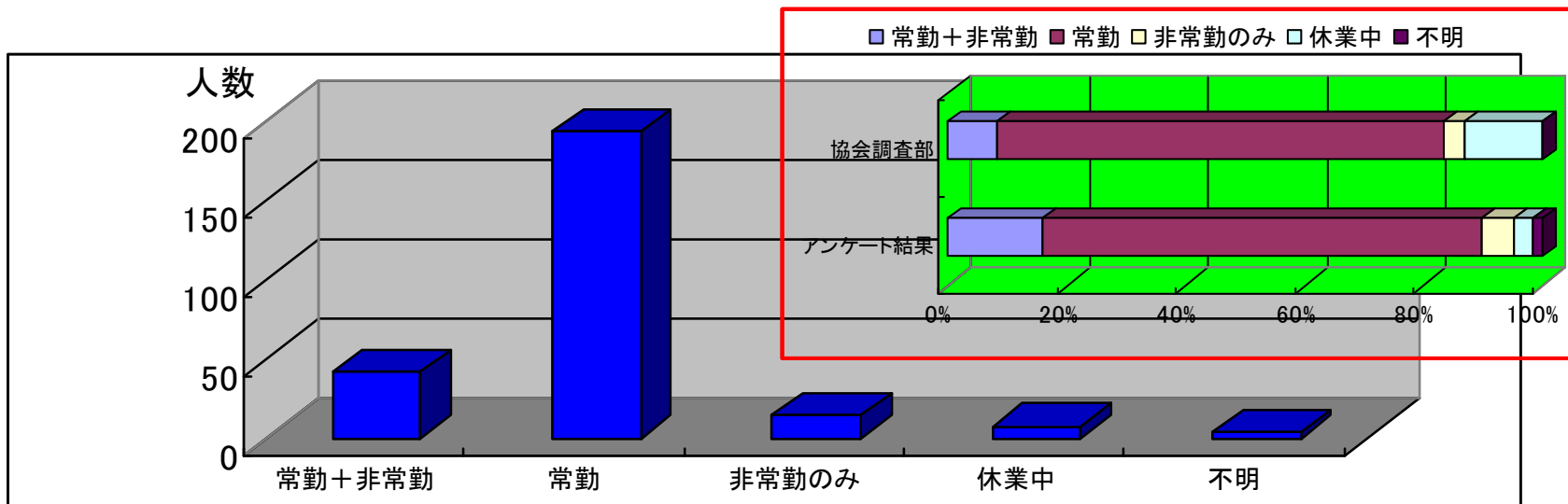


図3 勤務条件(参考:協会調査部調査)

# 結果3 現在の勤務領域とこれから

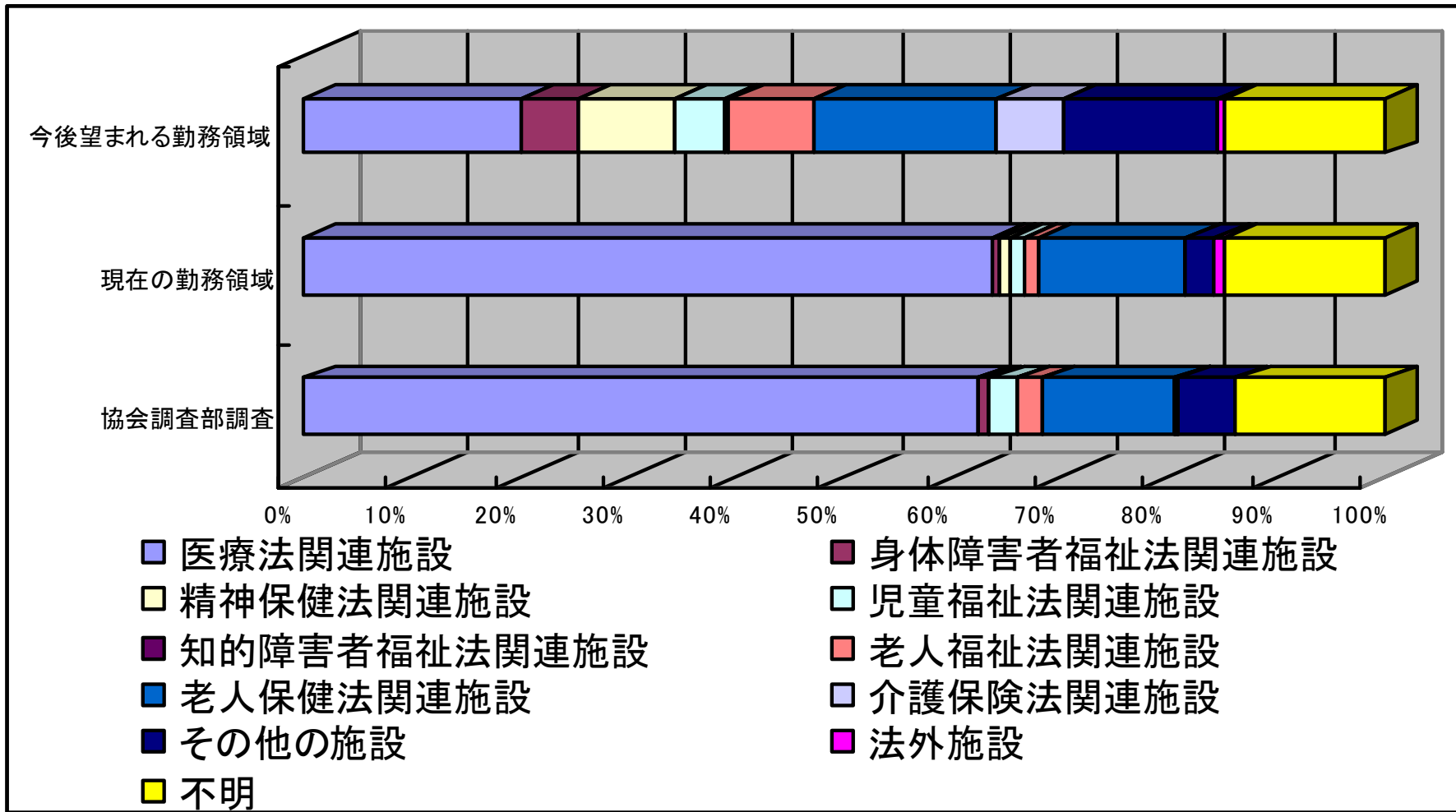


図4 協会調査部調査結果を参考とした領域の比率

\*「医療法関連施設」には、一般病院や精神病院を含む

\*「その他の施設」には、保健所・保健センター、訪問看護ステーションを含む

# 結果4 現在の対象疾患とこれから

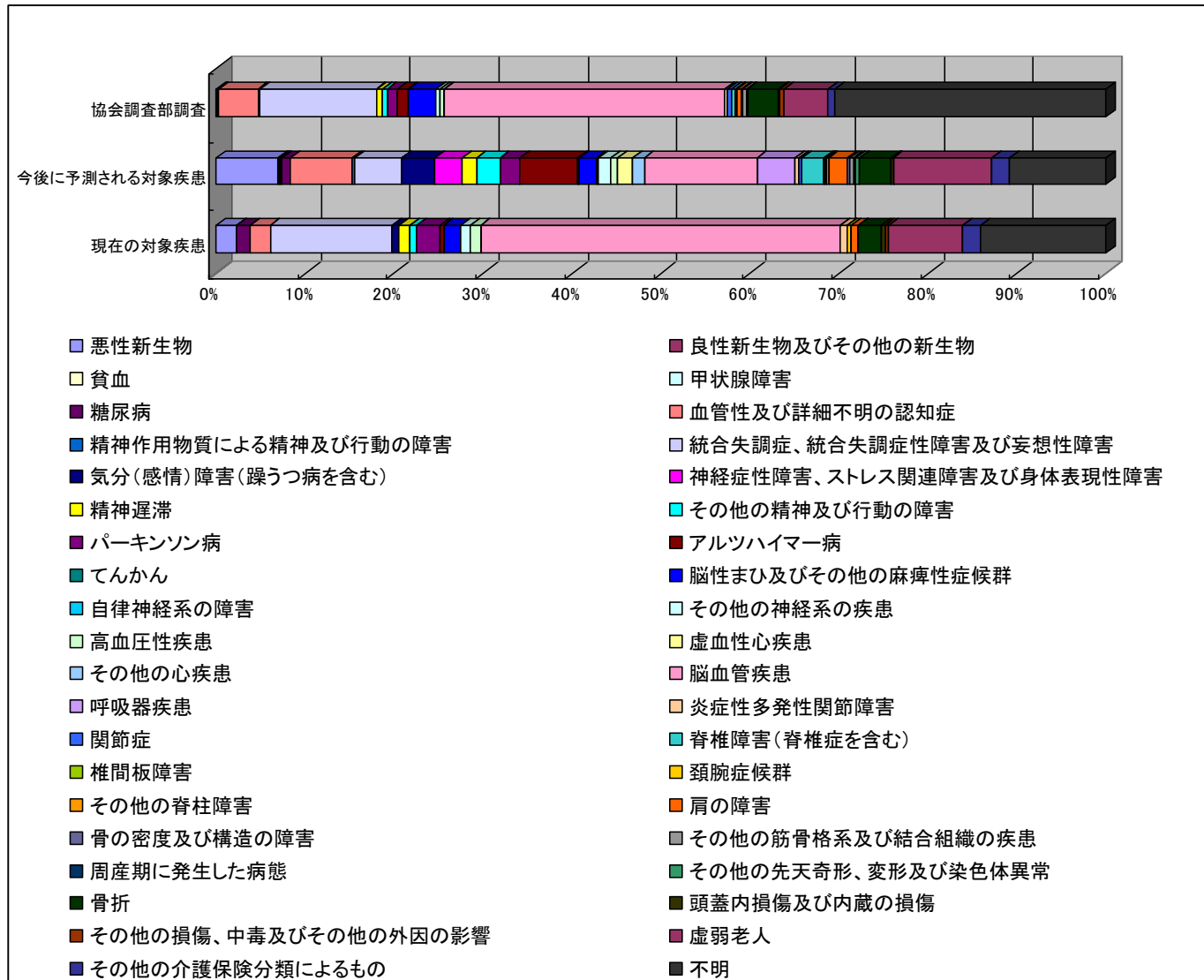


図5 現在の対象疾患とこれから(3つ以内選択) (参考:協会調査部調査)

# 結果5 現在のスタッフ数と適切数

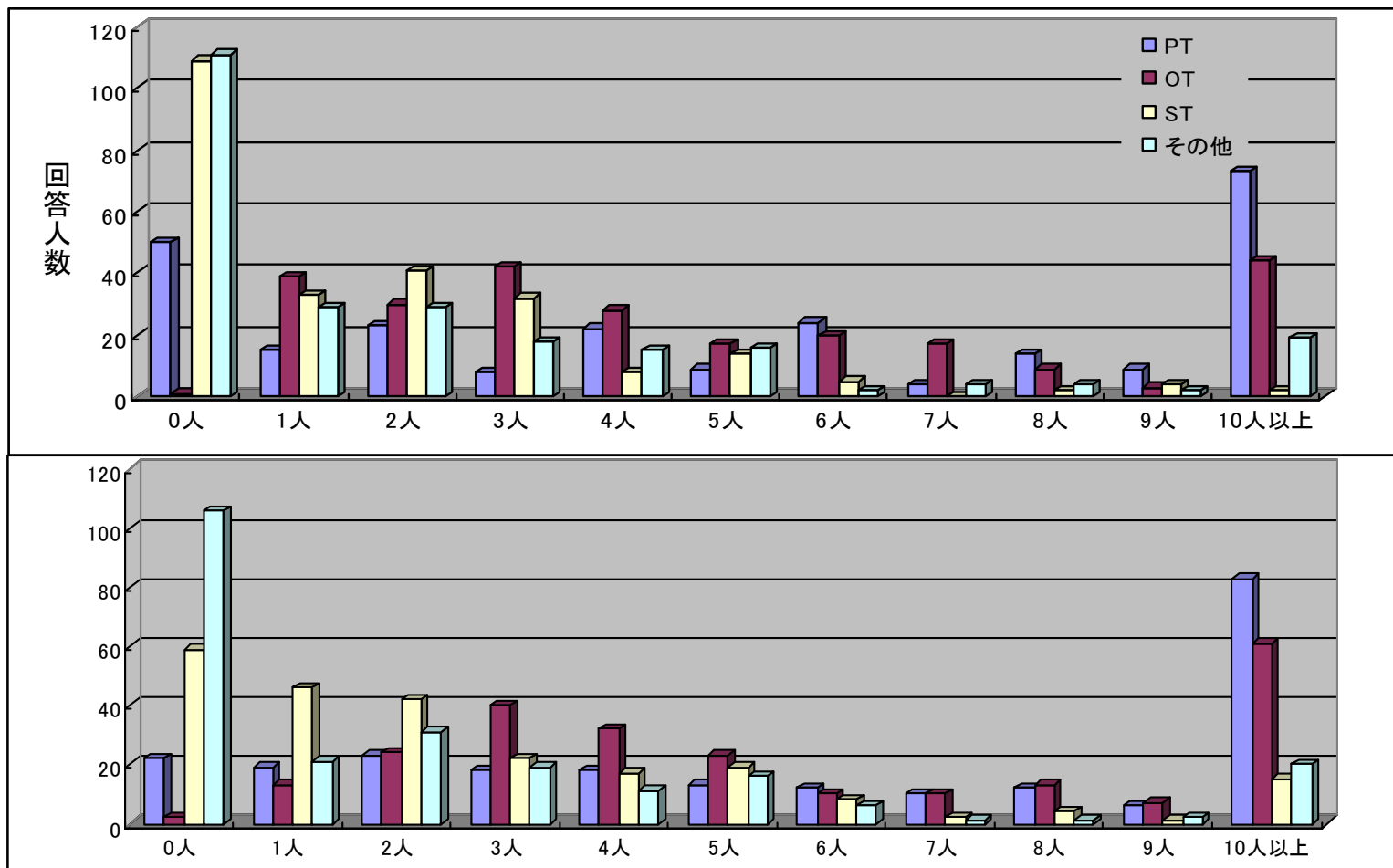


図6 上段: 現在所属する施設のリハビリテーション関連職種人数

下段: 適切と思われる施設のリハビリテーション関連職種人数

\*「その他」には、PT・OT・ST以外の全職種を含む

# 結果6 充足意識とこれから

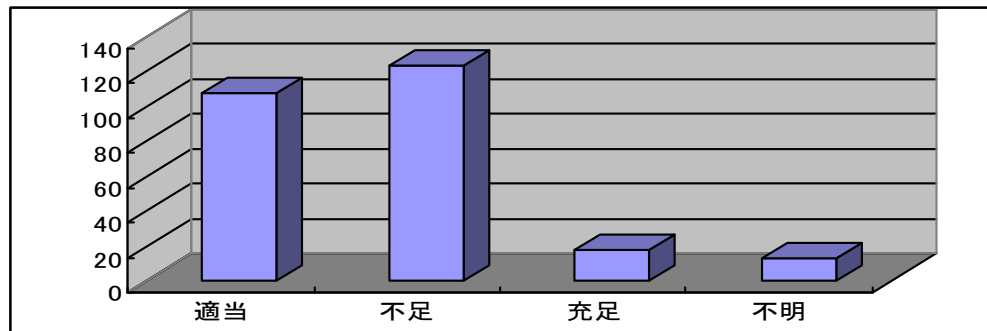


図7 所属する作業療法士数(主観的充足度)

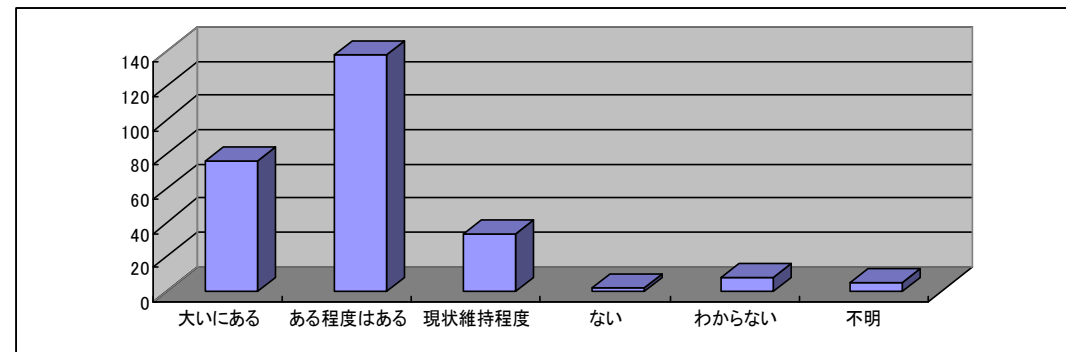


図8 職域拡大の可能性 (主観的展望)

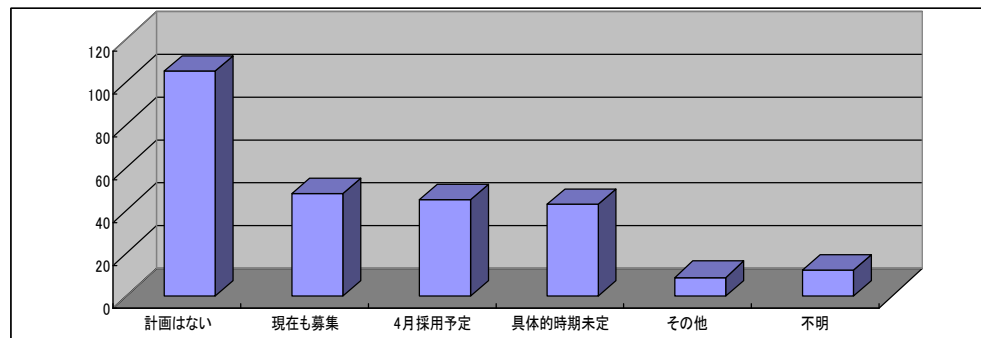
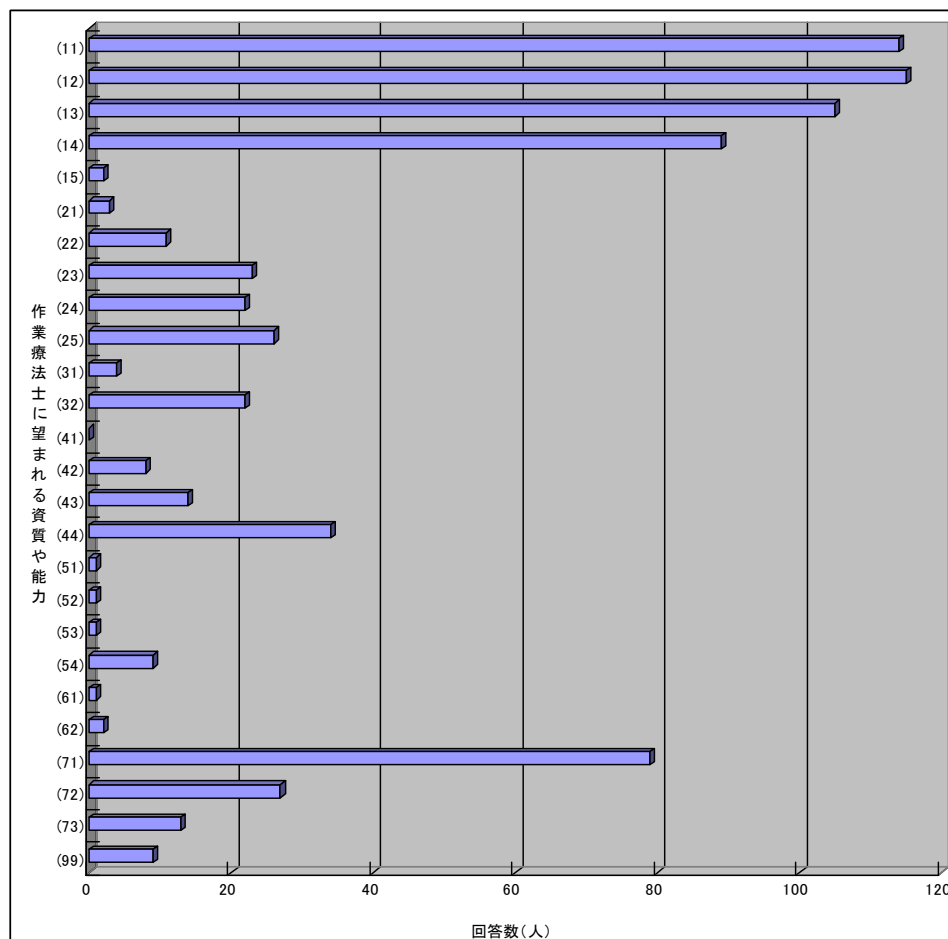


図9 施設での採用計画 (増員予定) \* 22年度診療報酬改訂情報 以前の集計

# 結果7 望まれる資質・能力



- 【1. 職業人としての適性】
  - (11)常識的態度や責任ある行動をとることができる。
  - (12)対象者および家族と望ましい人間関係をとることができる。
  - (13)関連職湯と連携・協力関係をとることができる。
  - (14)探究心や創造性など、専門職に意欲的に取り組む姿勢を持つことができる。
- 【2. 評価】
  - (21)対象者の評価計画を、無理なく立てる(立案する)ことができる。
  - (22)対象者に対して、適切に評価を実施することができる。
  - (23)評価結果から、対象者の全体像を構築し、まとめることができる。
  - (24)評価結果から、将来像を予測する(予後を予測する)ことができる。
  - (25)対象者の作業療法が対象とする生活機能や障害を焦点化することができる。
- 【3. 作業療法計画】
  - (31)対象者の長期目標および短期目標を適切に設定することができる。
  - (32)対象者に作業療法(治療・指導・援助)計画を適切に組み立てることができる。
- 【4. 作業療法実施】
  - (41)対象者への実際の作業療法実施に関して適切に準備することができる。
  - (42)対象者に作業療法について説明し、了承を得ることができる。
  - (43)計画に沿って、作業療法を適切に実施することができる。
  - (44)作業療法実施中に、対象者の状況の変化に適切に対応することができる。
- 【5. 再評価】
  - (51)作業療法実施に伴う、再評価計画を立てる(立案する)ことができる。
  - (52)再評価計画に基づいて、適切に再評価を実施することができる。
  - (53)再評価の結果から、対象者の全体像を見直す(まとめ直す)ことができる。
  - (54)再評価結果に基づく対象者の全体像から、作業療法計画を修正することができる。
- 【6. 記録・報告】
  - (61)職場の方法に応じて、適切に必要な事項を記録することができる。
  - (62)組織内の分掌に応じて、適切な内容の報告をすることができる。
- 【7. 管理運営】
  - (71)職場内組織の概要を理解し、適切に多職種と連携・協業することができる。
  - (72)制度や社会的状況から、適切に状況を判断し、管理運営に対応することができる。
  - (73)備品管理や人事管理を適切に管理し、職場内をまとめることができる。
- 【その他】
  - (99)その他:ご意見を具体的にご記入ください。

図10 作業療法士に望まれるもの(右から3つ以内選択)

\* 選択肢は、「社団法人日本作業療法士協会:作業療法臨床実習の手引き(第3版)

—Ⅳ. 具体的教育目標—,p17-p31」の「項目」を一部改変した

## 考察1

- 千葉県内の作業療法(士)の現状は、若い会員構成であり、多くが医療法関連施設で、少人数単位で勤務しているところが多いことが推測された。
- アンケート時点では、現状の人員不足と指摘する一方で、4月以降の新規職員採用の門戸は狭く、勤務条件としては大きくは変わらないことが示唆された。

## 考察2

- 今後は、社会変化に応じて、勤務領域は老人保健法や介護保険法関連、保健センターなどへ、また対象疾患も骨・関節疾患、認知症や精神及び行動の障害など加齢に伴う課題に対応すべきことが推測された。
- 今後の職域拡大の可能性は、これらの領域を示唆するものと考えられるが、職員採用・募集などに反映されてはいなかった。

## 考察3

- 考察2で示したように社会的変化に対応する中で、今後の作業療法士に求められる資質・能力は、「職業人としての適性」に含まれる項目であり、「多職種との連携・協業」が必要とする意見からも、多様化する職場内での専門性に応じて作業療法を提供することができることが課題であると推測された。
- 作業療法の知識・技術を必要と指摘するものは少なかったが、勤務領域や対象疾患が変化する中で、その専門性を発揮するための知識・技術の修得は必須であると思われた。

## 考察4

- 動向調査は、現状を把握して、その配置や領域の転換など、特に行政に働きかける資料として重要である。しかし、今回の回収率は30%以下であり、行政に提示できる資料には説得性に乏しい。会員各位が、専門職としての意識を持ち、対外的な資料となりうるように、通常業務から意識改革をする必要があると思われた。

# まとめ



一般社団法人千葉県作業療法士会会員に、「現状把握」「今後の動向」「望まれる作業療法士像」を中心に、郵送によるアンケート調査を実施した。



現状では、若い会員の少数職場が多く、勤務領域としては医療法関連施設が約60%であった。



これからは、社会情勢に応じて、勤務領域や対象疾患が変化することが予測された。



また、作業療法の提供の場でも、多職種連携や協業のための資質・能力が望まれている実態が伺われた。



一方で、動向調査などの重要性の認識が乏しいためか、回収率も低く、今後の意識改革への課題が残された。

## 謝 辞

お忙しい中、アンケートのご協力いただきました262名(+1名)の県士会員のみなさまに感謝申し上げます。

### 【調査研究にあたって】

- ◆ アンケート内容などについては、千葉県保健医療大学研究倫理審査委員会で承認を得た(申請番号26)。
- ◆ アンケート発送<sup>1)</sup>にあたっては、勤務施設への送付については平成21年度社団法人日本作業療法士協会会員名簿の使用を社団法人日本作業療法士協会に使用許可を得て住所録を作成した。また、自宅会員については、一般社団法人千葉県作業療法士会から、移し控えなどを保存しないなどの制約をした上で、住所つき封筒の提供を受けて送付した。
- ◆ アンケートはメール便で送付し、無記名回答して専用返信封筒で返信した。
- ◆ 本研究は、「平成21年度千葉県保健医療大学共同研究課題番号44」により、実施した。